

座標空間において、原点 O と点 A(1, 0, -1) と点 B(0, 5, 0) がある。実数 t を用いて $t\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB}$ と表される点全体を ℓ とする。また、 xy 平面上の $y = x^2$ を満たす点全体からなる曲線を C とする。

- (1) 曲線 C 上の点 $P(a, a^2, 0)$ を固定する。 ℓ 上の点 Q を、 \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{PQ} が垂直であるようにとる。このとき、点 Q の座標を a を用いて表せ。
- (2) 曲線 C 上の点 R と ℓ 上の点 S のうち、 $|\overrightarrow{RS}|$ を最小にする点 R と点 S の組み合せをすべて求めよ。また、そのときの $|\overrightarrow{RS}|$ の値を求めよ。

(22 千葉大 6)

【答】

- (1) $Q\left(\frac{a}{2}, 5, -\frac{a}{2}\right)$
- (2) $R\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{2}, \frac{19}{4}, 0\right)$, $S\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{4}, 5, \mp\frac{\sqrt{19}}{4}\right)$ (複号同順) のとき、最小値 $\frac{\sqrt{39}}{4}$

【解答】

$$A(1, 0, -1), B(0, 5, 0)$$

$$\ell: \overrightarrow{OX} = t\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} \quad (t \text{ は実数})$$

$$C: y = x^2, z = 0$$

- (1) ℓ 上の点 Q は実数 t を用いて

$$\overrightarrow{OQ} = t\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} = t(1, 0, -1) + (0, 5, 0) = (t, 5, -t)$$

と表すことができ、 $\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{PQ}$ であるから

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{PQ} = 0 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

を満たす。 $P(a, a^2, 0)$ は固定されており

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{PQ} &= \overrightarrow{OA} \cdot (\overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OP}) \\ &= (1, 0, -1) \cdot \{(t, 5, -t) - (a, a^2, 0)\} \\ &= (t + 0 + t) - (a + 0 + 0) \\ &= 2t - a \end{aligned}$$

であるから、\textcircled{1} より

$$2t - a = 0 \quad \therefore \quad t = \frac{a}{2}$$

であり、点 Q の座標は

$$Q\left(\frac{a}{2}, 5, -\frac{a}{2}\right) \quad \cdots \cdots \text{(答)}$$

である。

- (2) 曲線 C 上の点 R の座標は $(a, a^2, 0)$ 、 ℓ 上の点 S の座標は $(t, 5, -t)$ とおくことができ。R を固定したとき、 $|\overrightarrow{RS}|$ が最小となるのは $\overrightarrow{RS} \perp \ell$ のときであり、 $\overrightarrow{RS} \perp \overrightarrow{OA}$ である。
(1) より、これを満たすのは

$$t = \frac{a}{2} \text{ のときであり, } S\left(\frac{a}{2}, 5, -\frac{a}{2}\right)$$

となる。このとき

$$\begin{aligned} |\vec{RS}|^2 &= \left(a - \frac{a}{2}\right)^2 + (a^2 - 5)^2 + \left(\frac{a}{2}\right)^2 \\ &= a^4 - \frac{19}{2}a^2 + 25 \\ &= \left(a^2 - \frac{19}{4}\right)^2 + \frac{39}{16} \end{aligned}$$

となる。よって、 $a^2 = \frac{19}{4}$ のとき、 $|\vec{RS}|^2$ は最小値 $\frac{39}{16}$ をとる。

すなわち、 $|\vec{RS}|$ は

$$R\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{2}, \frac{19}{4}, 0\right), S\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{4}, 5, \mp\frac{\sqrt{19}}{4}\right) \text{ (複号同順) のとき, 最小値 } \frac{\sqrt{39}}{4} \dots\dots \text{(答)}$$

をとる。

• (1) を無視して次のようにしてもよい。

$$\begin{aligned} |\vec{RS}|^2 &= |(t, 5, -t) - (a, a^2, 0)|^2 \\ &= (t-a)^2 + (5-a^2)^2 + (-t-0)^2 \\ &= (t^2 - 2at + a^2) + (25 - 10a^2 + a^4) + t^2 \\ &= 2t^2 - 2at + a^4 - 9a^2 + 25 \\ &= 2\left(t - \frac{a}{2}\right)^2 + a^4 - \frac{19}{2}a^2 + 25 \\ &= 2\left(t - \frac{a}{2}\right)^2 + \left(a^2 - \frac{19}{4}\right)^2 + \frac{39}{16} \end{aligned}$$

であり、 $|\vec{RS}|^2$ は

$$\begin{cases} t = \frac{a}{2} \\ a^2 = \frac{19}{4} \end{cases} \text{ すなわち } a = \pm\frac{\sqrt{19}}{2}, t = \pm\frac{\sqrt{19}}{4} \text{ (複号同順) のとき, 最小値 } \frac{39}{16}$$

をとる。

よって、 $|\vec{RS}|$ は

$$R\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{2}, \frac{19}{4}, 0\right), S\left(\pm\frac{\sqrt{19}}{4}, 5, \mp\frac{\sqrt{19}}{4}\right) \text{ (複号同順) のとき, 最小値 } \frac{\sqrt{39}}{4}$$

をとる。